

新年度のスタートだ!

あかるいまち21

No.901号 2016年4月1日 組織部 TEL082-532-1264

	3月累計	2016年度累計
組合員ふやし	95人	1,376人
出資金ふやし	2,350万円	1億5,394万円
純増	▲1,757万円	4,684万円

2016年3月末、住所不明組合員4,871名（出資金31,820,774円）の「みなし自由脱退」処理を行いました。

お楽しみ会からの つながいマップづくり

3月26日、安芸府中支部のお楽しみ会が開かれました。まずビンゴゲームから始まりましたが、普通のビンゴではありません。それぞれが思いつく花、動物、果物を9マスに書き込み、順番で自分の書いたものの中から1つを言っていきます。変わったものを書くとなかなか3マス揃いません。3回やって全員が「賞品獲得権(?)」を得ました。

つぎはフォークダンス。昔踊ったマイムマイム。足がもつれておととと。

後半は、地域資源マップづくり。安芸府中支部はこの日が最初です。それぞれが住んでいる4つのエリアに分かれて、医療機関や介護事業所などの所在地を地図に落としていきます。

「このエリアは事業所が少ないよね」「事業所名簿では、たくさんあるようだけど、1つの事業所が複数の事業をやっているんだね」など地図を見ながら自然に感想が出ます。

地域の歴史に詳しい方からは「昔の街道はこの道」「このあたりは沼のようだった」など興味深い話も聞けました。



生協創立60周年記念講演会を聴いて、考えること

「被爆ピアノ」の演奏から始まり、「青い空は」の合唱で終わる。素敵な演出でした。

私はこれまで斉藤とも子さんを知らなかった。登場され、声を聞いたとき、すがすがしい空気が流れるのを感じた。こんなに真っ直ぐ物事に真向って生きている人がいるんだ！と感動を覚えた。被爆者のこと。一人の人間の命・生まれた命は大切なんだ。ということがひしひしと伝わってきた。今の人類では制御できる力がないのに、なくせない原発・核兵器。斉藤さんのような活動と、この保健生協のような活動が相乗してこそ、無くすことが出来るんだと思う。

生命を大切にしない国のありよう、世の中が、私たちの願いと真逆の方向へ進んでいる今、生協病院の存在はとても重要だ。市街地であって、無医地区であり『差別・貧困・被爆』と言う三重苦の中にあつた福島町に町民自らの手で作り上げられた診療所が今や、大きな総合病院に育つた。『無差別平等の医療と住民本位の医療の追及』と『ともに命を大切に、みんなが健康で安心して暮らせる社会をつくる』

この理念が実現するよう、私ができることは何なのか考えていきたい。【己斐支部 中原久美子】

協同組合がよりよい社会を築きます



広島中央保健生活協同組合

